



▲高さ約6mにもなる『エンマ大王からくり山車』が極楽通りを通過する様子

年に一度の地獄の鬼の祭典
第62回登別地獄まつり

8/30・31

8月30日・31日の2日間、登別温泉街で『第62回登別地獄まつり』（市、登別国際観光コンベンション協会主催）を開催しました。

初日、悪天候の中始まるも、『オニッコマーチングバンド』で温泉街が沸き立つと同時に、曇り空は快晴へと一変。定番の『エンマ大王からくり山車』や『鬼みこし暴れ練りこみ』が披露されると人々はすっかりお祭りムードへ。終盤の『鬼踊り大群舞』では祭りばやしに乗って陽気に踊る参加者の姿も見られ、火花が打ち上がるとともに万感のフィナーレを迎えました。



▲消防車両に大喜ぶする子どもたち

消防署ってどんなところ？
鷺別子育て支援センター 消防庁見学

9/5

9月5日、市消防本部は、消防庁舎の施設見学会を開催し、鷺別子育て支援センターに通う子どもたちとその保護者20名が消防庁舎を訪れました。

見学会では、普段間近で見ることのない執務室や仮眠室のほか、さまざまな装備が備えられた出動準備室などを訪れ、子どもも大人も興味津々で見学。多くの消防車両が並ぶ車庫では、実際に車両に搭乗する時間が設けられたほか、帰り際には、屋外で消防職員がホースを使った放水を披露するサプライズもあり、子どもたちは笑顔で見学会を終えていました。

姉妹都市と地元の屋台を満喫
第37回幌別地区手づくり祭り

9/6・7

9月6日・7日、道道弁景幌別線（北海道銀行登別支店〜幌別小学校前）で『幌別地区手づくり祭り』（同祭り実行委員会主催）が開催されました。

祭りから暴力団露店を排除し、資金源を断つことを目的に平成元年から続く本イベントは、今年で37回目の開催。市役所前の道路には50以上の屋台が立ち並び、姉妹都市である宮城県白石市、神奈川県海老名市の物産販売などもありました。

祭りは多くの人でにぎわい、来場者は屋台で購入したグルメを堪能しつつ、姉妹都市の特産品の買い物を楽しみました。



▲歩きながら祭りを楽しむ来場者

演劇で江戸の暮らしを知る
学校巡回公演『くずくしい屑屋でござい』

9/12

9月12日、総合体育館で劇団前進座による時代劇『くずくしい屑屋でござい』が開かれ、市内小学6年生が演劇を楽しみました。貧乏な武家の母娘から仏像を預かった屑屋（江戸時代のリサイクル業者）の清兵衛が、それを若侍に売り渡すところから事態が始まり、最後には殿様まで巻き込む大騒動に発展する古典落語を基にした物語。

開演前には、舞台俳優から江戸の長屋の様子と物売りの説明が行われ、児童の代表が物売りに扮して舞台上で声出しを体験するなど、子どもたちは舞台を通じ江戸時代の暮らしを学びました。



▲舞台上で物売りに扮し声出しをする児童